

## 住んでいる地域の

## 環境を知ろう

皆さんは、住んでいる地域の危険箇所が把握できていますか。

長年住んでいる地域でも、意外と見落としがちな危険箇所が潜んでいるかもしれません。また、普段は危険と感じなくても、想定外の大雨が降ったりすると思わぬ状況に陥るかもしれません。

私たちがやるべき基本的で大切なことは、自分たちが住んでいる地域の環境をしっかりとおくことです。急傾斜地はないか、側溝などはしっかり機能するか、あふれた場合、水はどのような動きをするのか、地面の土質はどうか、水はけはどうか、などについて事前に把握しておくことがとても重要です。また、熊本地震の影響により地形がどのように変わっているのかなども、確認が必要です。

そうした状況を見極めたうえで、実際に災害が発生した場合、どのような状況になるのかがイメージできれば、いざという時の確で素早い対応が可能となり、自分の身を守ることに直結します。

そのほか、県では、がけや溪流の付近など土砂災害によって生命や身体に危害が及ぶ恐れがある場所を、土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域等に指定しています。町内には土砂災害警戒区域が138か所あります。公表されている土砂災害のハザードマップなどを参照して、住んでいる

場所が土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域などに当たるかどうか、あらかじめ確認しておくことも大切です。

大雨の予報が出ているときは、町からの避難情報に注意し、雨が降り出したら、豪雨となる前に早めの避難を心掛けましょう。高齢者など災害時要援護者がいる場合は、移動時間を考えて早めの行動を心掛けましょう。

### 豆情報

#### 簡易雨量計を作ってみよう

自主避難の目安となる降雨量を把握するのに役立ちます。



#### 【作り方】

- ①1.5リットルのペットボトルを準備。
- ②くぼみ部分 avoidance、上部から切断する。
- ③切り取った部分を、口を逆さにして本体部に入れ、セロハンテープなどで止める。このとき、水抜き用の切り込みを入れておく。
- ④メモリを貼って完成。

※設置するときには、風などで倒れないように固定すること。

# 避難シミュレーション

## 気象情報

## 大雨注意報など

## 避難情報

### 注意喚起

ここに表示した気象情報は一例です。また、避難情報は必ずしも順番に発令されるとは限りません。発令がなくても雨の状況から身の危険を感じたときには、各自の判断で早めの避難を心がけてください。

### 情報収集

テレビ、ラジオ、インターネットなどにより、今後の気象・避難情報に注意してください。町からの情報は、防災行政無線、ホームページ、まじきさいが FM などでお知らせします。ホームページでは、状況により「災害版」に切り替えて情報を発信します。

### 避難場所・経路の確認

避難場所の確認とともに、河川の氾濫や土砂災害などの危険がないような、より安全な避難ルートを選択しましょう。

### 非常用持ち出し品の確認

いざという時のために備えておいた水や食料、懐中電灯や携帯ラジオなどの備品を改めてチェックしておきましょう。